

ナシの被覆栽培における生産安定技術

県果樹試験場 落葉果樹部(現、農研センター果樹研究所落葉果樹部)

研究のねらい

温暖多雨の条件下でのナシ生産は、気象条件等の悪変に左右されやすく、収量、品質ともに不安定になりやすい。そのため、できるだけ環境悪変に耐える側枝の資質を究明し、高品質生産安定の一助とする。

研究の成果

1. ビニール被覆条件下で、花芽の80%を着生する側枝の基部直径は、露地の5.3 cmから、3年目の3.5 cm、9年目の2.5 cmと被覆年数が長くなるにつれて細くなる傾向がみられた。
2. 露地及び被覆年数別に、果実のL級以上果率と側枝直径を調査したところ、基部直径3.0 cmまでの側枝で、被覆年数にかかわらず、L級以上果率が高いことが認められた。
3. 基部直径2.5 cmまでの側枝に6個着果した果実のL級以上果率が高く、また側枝の強さ(直径×長さ)で表現すれば、120～180の枝に6個着果した果実のL級以上果率が高かった。なお、その条件で着果させたものは収量も多かった。
4. ビニール被覆条件下では、若い枝の新しい花芽(えき花芽、1年生短果枝花等)が果実品質はすぐれていた。また、安定生産の見地から、露地でも2年生程度の側枝をより多く使用することが望まれる。

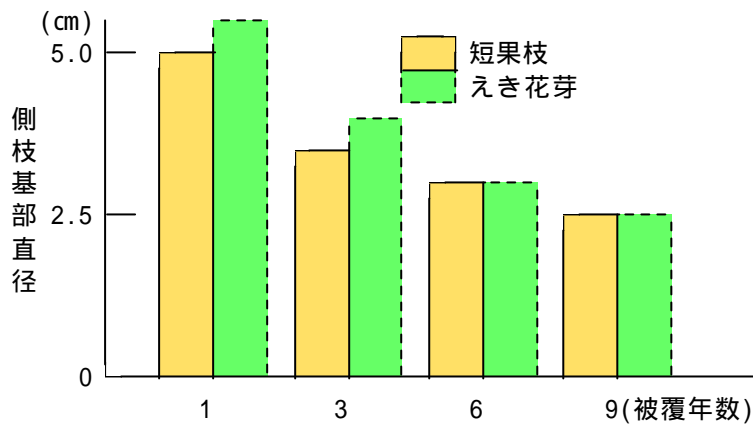


図1 花芽の80%を着ける側枝直径

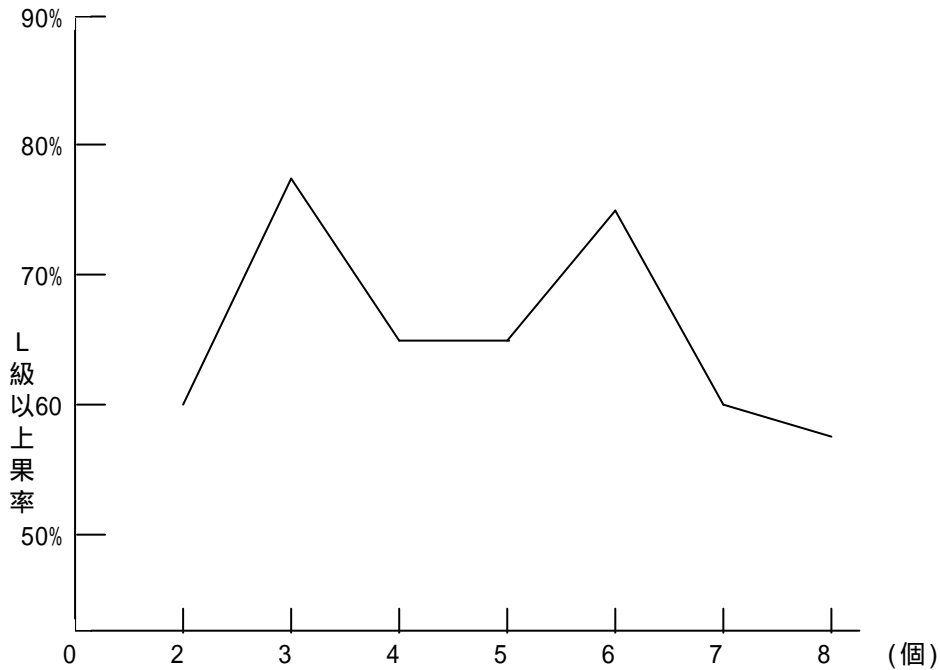


図1 120~180の側枝の強さでの着果数とL級以上率

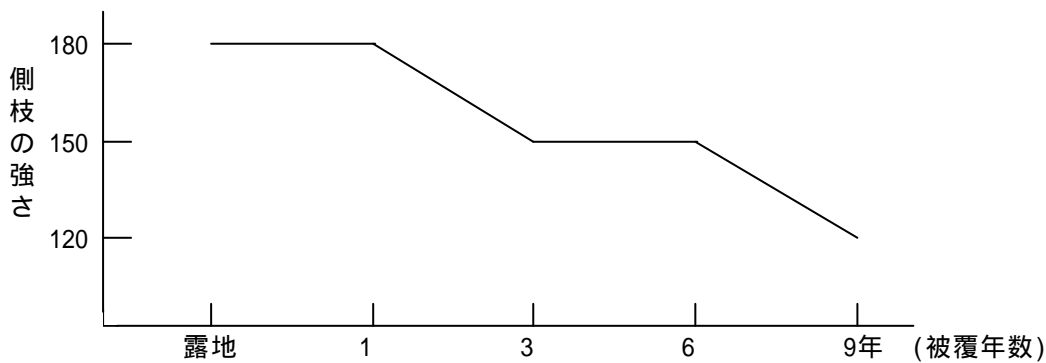


図2 L級以上果率からみた被覆年数と側枝の強さ(強さ = 太さ × 長さ)

表1 被覆年数別、側枝基部直径別のL級以上の果実の比率

基部直径	被覆年数					
	露地	1年目	3年目	6年目	9年目	平均
1.5cmまで	76	100	69	54	83	76
2.0cmまで	63	74	78	44	78	67
3.0cmまで	55	77	-	-	-	66
3.1cm以上	50	64	-	-	-	57
1樹平均	56	74	63	37	78	62